



# 第2会場 ● 2F 自由研修室

■司 会／堺 裕明 福岡県教育庁筑豊教育事務所社会教育室主任社会教育主事  
眞鍋 幸一 愛媛県県民活動推進課 課長

分科会の進め方 13:30~13:35

1 「今図書館で何が起きているか」ご存知ですか  
-図書館のレファレンス機能を中核とした学習の拠点づくり、情報提供システムのネットワーク化と生活化- 13:35~14:05

山田 晋(鳥取県 鳥取県図書館協会 会長)  
小林 隆志(鳥取県 鳥取県立図書館 支援協力課長)

レファレンスサービスと結合させた生活情報・問題解決情報の提供機能は、図書館を個人学習や問題解決学習の拠点として再評価すべき時代を到来させている。図書館の中に「支援協力」を業務とするシステムが生まれているのはその一例である。職員の情報の案内・提示・活用等の支援能力が向上すれば、図書館は蓄積された図書館情報の活川に加えて、従来の公民館が果たした生活課題の解決や学習、発表、交流の場でもあり得る。一方、生涯学習が生み出した市民の問題解決意欲、活動開発意識の向上に伴って図書館は自己判断・自己責任型社会のライフスタイルにマッチした生涯学習の拠点施設に変貌しつつあるのである。

2 「周南市歴史博士検定」を核としたふるさと教育による地域形成の方法 14:10~14:40

柏村 聡(山口県周南市 「周南市歴史博士検定」実行委員会事務局、周南市中央公民館)  
花野 勝則(山口県周南市 「周南市歴史博士検定」実行委員会事務局)

「検定」の実行委員会は、郷土史研究家、ふるさと歴史講座講師、観光ボランティアガイドの会、教育委員会、観光政策課の関係者による混成である。「検定」の目的は郷土の歴史教育・学習を通して多様な地域形成機能を活性化することである。「検定」企画は様々な形態の教育・学習を促したに留まらず、地域メディアの協力を得て周知範囲が拡大し、タクシー協会、美術博物館、校長会、青年会議所、商工会議所、観光協会などを巻き込んだ各種派生的な事業を生み出している。

ティータイム 14:40~15:05

3 新一年生に花を育てる心と規範を育てる佐賀「夕顔運動」の22年 15:05~15:35

糸山 孝義(佐賀県佐賀市 夕顔運動佐賀県本部世話人 副代表)

福岡で29年前に始められた夕顔運動は、佐賀の地にも根付いて脈々と受け継がれ22年目となった。「良い子の皆さん!夕顔の花が咲く頃にはお家に帰りましょう」をキャッチフレーズに早めの帰宅を呼びかけるユニークな運動である。平成23年は、佐賀県全域の小学校184校、約8,100名の新入学児童生徒に「夕顔の種」「新聞」「アンケート用紙」をセットにして、各地域の世話人を通じて各小学校に配布した。夕顔は朝夕2回の水やりが不可欠であり、子どもは花を育てながら自らの情操をはぐくみ、生き物を育てる規範を身につけ、家族との交流を深めていっている。沢山の感想が寄せられ運動の成果を実感している。

4 ぼっけもんが植えた日本一の花文字のまちづくり  
-霧島市福山町惣陣ヶ丘の空へのアピール- 15:40~16:10

川畑 巧(鹿児島県霧島市 NPO法人 ふっぎやまぼっけもん会 会員)

霧島市福山町は鹿児島空港への進入路の真下に位置している。そこで鹿児島湾から霧島連山まで360度の展望のきく惣陣ヶ丘に6,000本のツツジを植えて日本一の花文字のまちづくりを思い立った。花文字は「フ・ク・ヤ・マ」。一文字45m×40mである。毎年4月29日に下草薙りとパーベキューの交流会。お盆前後は電飾でライトアップして帰省客、訪問客に対する空へのアピールを行なう。児童更生施設の生徒も参加するようになって来たので今後の後継者づくりに注力したいと考えている。